

1 — ひまな人 5

2 — ばあばの家族かぞく 19

3 — 理由りゆう 26

4 — 五号室ごうしつ、面会謝絶めんかいしゃぜつ 47

5 — 星空 62

6 — 旅立ちたびだち 82

あとがき 99



~~~~~ 福明子 (ふくあきこ) ~~~~~

1957年神奈川県生まれ。『ジンとばあちゃん  
とだんごの木』(あるまじろ書房)でひろす  
け童話賞、「やんも一光る命の物語」で椋鳩  
十記念伊那谷童話大賞、「七度夢」でグリム  
童話賞受賞。作品に『花咲かじっちゃん』  
(ひくまの出版)、『天風の吹くとき』(国土  
社)などがある。日本児童文芸家協会・日本  
文藝家協会会員

~~~~~ ふりやかよこ ~~~~~

1946年山口県生まれ。『ばあちゃんママのな  
つやすみ』で絵本日本新人賞佳作、『おばあ  
ちゃんのしまで』でけんぶち絵本の里大賞び  
ばからす賞受賞。絵本に『大どろぼうくま  
さん』(教育画劇)、『ジュゴンのくる海』(新日  
本出版社)他。日本児童出版美術家連盟会員。

# 1——ひまな人



さくら病院<sup>びょういん</sup>って知ってる？ 建物<sup>たてもの</sup>は古いけど、患者<sup>かんじや</sup>さんたちには評<sup>ひょう</sup>  
判<sup>はん</sup>がいいんだよ。

その病院<sup>かんごし</sup>の看護師<sup>かんごし</sup>で、「マミーさん」てよばれてるのが、ぼくの母さ  
ん。ぼくんちはぼくと母さん二人だけの家族<sup>かぞく</sup>だから、母さんががっちり  
働<sup>はたら</sup>いて、ぼくを育て<sup>そだ</sup>ててくれるんだ。

母さんが「マミーさん」てよばれ出したのは、名前が「真美」だかららしいんだけど、本人はけっこうこのあだ名、気に入ってるみたい。

もしかしたら、患者さんたちみんなの母さんになったつもりでいるのかもしれない。だけど変だよ。だって、患者さんの方がだいぶ年上だったりするわけでしょ。たとえば、ちっこばあばの歳は、母さんの倍以上だったはずだもの。

そう、「ちっこばあば」。

これもあだ名。

ばあばは、みんなにそうよばれてた。

さくら病院で、ぼくがちっこばあばとはじめてあったのは、夏のはじめだった。

病院の廊下には、たなはたのササかざりがかざってあったつげ。一階には、病室のほかに外来の診察室があつて、小さい子もけっこう来るんだ。だからササには、かわいいねがいごとを書いたたんざくがたくさんむすんであつたけど、一枚だけちがつてた。

ササじゃなくて「5」って書かれたルームナンバーのプレートに、むすびつけてあつたんだ。だれかのいたずららしい。何を書いてあるんだろうと思つて、声に出して読んでみた。

「ちっこ、ばあばの、部屋？」

そんなに大きな声を出したつもりはなかったんだけど、すぐに、

「はいはい」

って声が出た。

五号室ごうしつのとびらが少し開いててね、のぞいたら目があった。

おばあちゃんが笑わらってた。

マジでちっちゃかった。

そのちっちゃいおばあちゃんは、ずっと、廊下ろうかのようすを見ていたら

